

大阪・関西万博に出展



< 8 >

日本は地震が頻発する国であり、地震による倒壊建造物に埋もれた被災者の救助は難題となっている。最初の72時間で被災者を発見する可能性を飛躍的に高める「災害時、倒壊した建造物に埋もれた要救助者探知システム」が大阪・関西万博で展示される。

災害時要救助者探知システム開発グループ



災害時の人命救助に役立てようと開発中のバンドタイプICタグを装着するマトリックスの辻義光代表取締役

としている。要救助者は腕にバンドタイプのICタグを装着し、このタグが体温や生体情報を検知するとともに埋もれた位置を特定する。この展示を実現するため、マトリックス(大阪市)が統括する3社が連携。マトリックスは、レース競技のタイム計測や学校の見守りシステムなど、多様な用途に対応するアクティブタグ製品の開発してきた実績を持つ。同社は、今回の万博

技術革新で埋もれた命の救助へ

「マー」のちをつなぐ」を具現化するもの。マトリックスの辻義光代表取締役は「日本の救助活動に新たな道を開き、多くの命を救うことができる技術を開発できることに大きな意義を感じている」と話す。技術革新と企業間連携の力によって実現されるこのシステムが万博を通じて、広く認知され、日本のみならず世界中で命を守る技術として活用されることが期待されている。

マトリックス(代表企業) × 旭電機化成▽ミマモル ◎中小企業振興部 ☎6944・6461

万博の出展詳細はこちら

